特集 大動脈瘤ステントグラフト治療

心臓血管外科の身体にやさしい先進治療

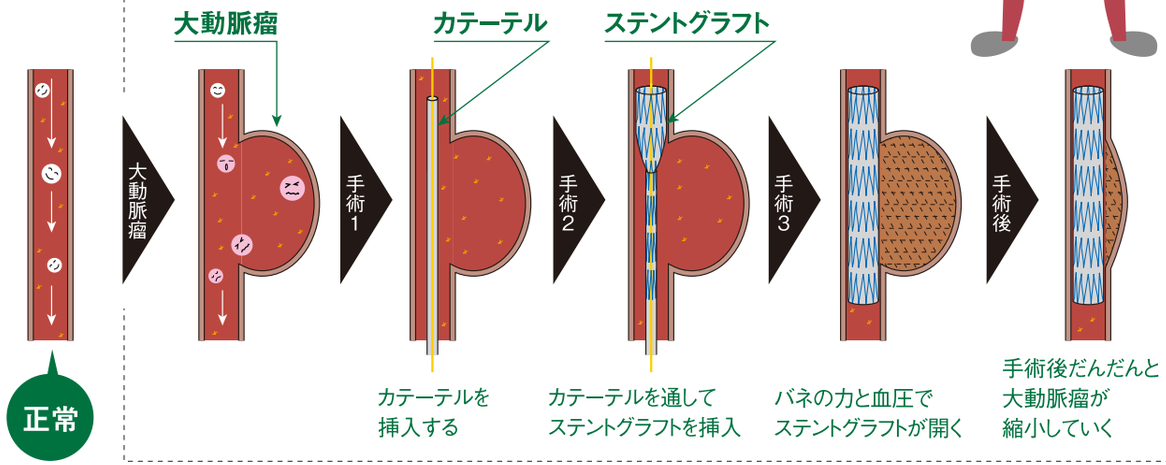
大動脈瘤の新しい治療法として、「ステントグラフト治療」が注目されています。今号では、本院が中国四国地区でトップクラスの治療実績を誇り、体に負担が少ない先進的な治療法である「ステントグラフト治療」について紹介します。

説明は
徳島大学病院　心臓血管外科
藤本 鋭貴 特任助教
（ふじもと えいき）
■問い合わせ
Tel. 088-633-7150
（心臓血管外科外来）

大動脈瘤とは？

大動脈は心臓から拍出された血液を体の各器官に運ぶ、体内で最も太い血管です。この大動脈が瘤（こぶ）のように膨れた状態を大動脈瘤と言います。大動脈の内部には高い血圧がかかっているため、動脈硬化などで弱くなった部分があると、膨らんでしまい瘤ができやすくなります。いったんできてしまった瘤を放置すると、最終的には破裂する危険性があります。大動脈瘤は、ほとんど自覚症状がありませんが、一度破裂してしまうと大出血による意識障害などを起こし、命に関わる危険がある恐ろしい病気です。

◆ステントグラフト治療のイメージ図



ステントグラフト治療とは？

従来の大動脈瘤治療では、お腹や胸を大きく切って人工血管で修復する手術方法が取られていました。しかし近年、高性能の企業性ステントグラフトが登場し、体に優しい大動脈瘤治療法として、ステントグラフト治療が注目されています。

ステントグラフト治療は、体に小さな傷を入れ、そこから血管の中にステントグラフト（人工血管にステントといわれるバネ状の金属を取り付けた新型の人工血管）を挿入していきます。大動脈にできた瘤の内側にステントグラフトを留置することにより、膨らんだ箇所への血液の流れを止め、破裂を防ぐことができます。

ステントグラフト治療は、その多くが足の付け根などを2～3cm切るだけで治療を行うことができ、また手術時間や出血も少ないため、手術後はすぐに日常生活に戻ることが可能です。体への負担が少なく、従来は手術を行うことができなかった高齢者や持病を抱えている患者さんに対してもこの治療を適用することができます。

この治療の問題点としては、ステントグラフトの端から血液が漏れ、大動脈瘤が再発する可能性や、比較的新しい治療法であることから、治療後も長期的に経過を診る必要がある点などが指摘されています。しかし、高性能のステントグラフトの開発や、先にこの治療を導入している海外においても、術後の成績が良好なことから長期的に安全な治療法として認識され始めています。

中国四国地区でトップクラスの症例数

本院は、ステントグラフト治療の治療実績において中国四国地区ではトップクラスであり、年間約60件の実績があります。

ステントグラフト治療は優れた治療法ですが、安全・適切に実施するには、一定の経験及び知識を有する医師及び設備が必要です。このため、「日本ステントグラフト実施基準管理委員会」において、施設・実施医・指導医の基準が設けられています。本院心臓血管外科の藤本特任助教は、ほとんどの機種において実施医及び指導医を取得しており、関連病院等を含めると、年間100件以上のステントグラフト治療を行っています。また、四国で初めて企業性ステントグラフト治療を成功させた第一人者です。大動脈瘤と診断されたが、開腹・開胸手術には不安がある方、治療を受けるかどうか迷っている方、その他血管疾患で気になる症状がありましたら、本院の心臓血管外科へまずご相談ください。